

地域で学び、地域と共に歩む松本大学の今。

松本大学学報

sokyu
蒼穹

2019.12 Vol.137



復興に向けて！被災地での災害ボランティア活動(詳しくはP.10をご覧ください)

特集

地域の人材を育てる

～松本大学の高大連携の取り組み～

- P.02
- 長野県議会と包括連携協定を締結 P.05
- 長野県の活性化と大学の役割を考える
— 「人の循環」と社会の高度化への対応 — P.06
- 努力が大きな成果に！教員志望の学生へ全学的なサポート実る!! P.09
- 地域連携活動 P.10
- 陸上競技部 日本インカレで8位入賞! P.15 ほか

地域の人材を育てる ～松本大学の高大連携の取り組み～

地域連携委員会 委員長・高大連携推進委員会 総合経営学部 主任 白戸 洋

最近注目されている高大連携や高大接続の議論の中には、大学にとっての学生確保の観点からのものが多く見受けられますが、本学では、「地域を担う若者を地域で育て地域に還す」という理念を反映し、高校・大学時代を通じて、地元を支える若者を育てることを目的としています。

そこで松本大学が取り組む高大連携事業について紹介し、今後のあり方について考えてみたいと思います。



マーケティング塾開講式

本学の高大連携の取り組み

① 先駆的な取り組みとなった穂高商業高等学校との連携事業

本学にとって本格的な高大連携事業の取り組みとなったのは、松本大学松商短期大学部が、穂高商業高等学校との連携協定に基づいて2006年より開始した「高校授業グレードアップ型連携事業」および「大学授業チャレンジ型連携事業」です（詳細はP.4にて説明）。高校の講義への本学教員

の参画や大学の講義への高校生の参加などを通じて高校教育の高度化を図るとともに、単位互換や本学への進学を通じて継続的な人材育成を実現する画期的な取り組みともなりました。高校時代に本事業に参加した数多くの生徒が、その後本学に進学して学びを深め、中には商業の教員免許状を

取得し、長野県高校教員として活躍するなど、まさに高校と大学の5年ないし7年間を通じた一貫教育を実現しています。これは単なる大学側の学生募集や「高校と大学の交流」という当時の高大連携の枠組みを超える、まさに若者を地元の高校と大学で育てるという先駆的な取り組みです。

② 商業教育の発展を目指す「デパートサミット」事業

2013年より開始された「デパートサミット」事業は、穂高商業高等学校との連携で培った信頼関係を基盤として、長野商業教育研究会と連携して行う新しい高大連携の



マーケティング塾商品検討会

取り組みとなりました。県内の商業を学ぶ高校の生徒を対象とし、マーケティングについて理論と実践について学び商品開発や人材育成を行なう「マーケティング塾」と、その成果を百貨店で発表し検証する「高校生合同販売会（デパートゆにっと）」によって、商業教育の拡がりと深化を模索する挑戦的な取り組みです。毎月本学で開催される「マーケティング塾」では、主に総合経営学部と松商短期大学部の教員による講義と、学校の枠を超えた生徒間のグループワークなどを行い、そこで生まれた斬新なアイデアを活かして地元の資源を活用した商品を



高校生合同販売会（デパートゆにっと）

開発しています。そして数多くの「デパートサミット」事業の修了生が本学に進学し、デパートサミットを支援することを目的とする支援会「ゆにまる」を結成し、自らの後輩のサポートを行うなど、生徒・学生間の相互の学びにつながっています。

③ 地域を支える人材の育成を目的とする「地域人教育」

2012年より開始された飯田長姫高等学校（現飯田OIDE長姫高等学校）との連携事業である「地域人教育」は、高校生を将来の地域を支える人材として育てるために、地域の歴史や資源を学び、地域の課題を研究し

その解決を図ること目指しています。飯田長姫高等学校、飯田市と松本大学の3者で「飯田長姫高校地域人教育推進に関わるパートナーシップ協定」を締結し、3年間で7単位245時間のプログラムを実施しています。地

域人とは「地域に愛着を持ち、地域を学び、地域に貢献する」人材育成を指します。全国的にも先駆的な取り組みとして注目されており、この取り組みは文部科学省によって、地域と協働した高等学校改革推進事業のモデル

ルとして取り上げられ、高校における知の拠点事業（高校版COC）として2019年度より制度化されています。2019年には、本学と諏訪実業高等学校、諏訪市、諏訪東京理科大学の4者協定を締結し、諏訪地方における「地域人教育・諏訪」がスタートしています。

さらに、白馬高校においても地域と協働した高等学校改革推進事業「世界水準の参画リゾートHAKUBAの学びの循環サイクルの構築」が採択され、本学も学びのサポーターとして、実施支援組織の「白馬コンソーシアム」に参画して協力を行っています。

一地域課題の研究推進へー



9月24日、本学は、諏訪実業高等学校の1～3年生の系統的な学習を通して地域課題を研究する「地域人教育・諏訪」の推進に向けたパートナーシップ協定を諏訪実業高等学校、諏訪市、諏訪東京理科大学と結びました。住吉廣行学長は「地域活性化は大学の狙いと軸を一にしており、できるだけ力を注ぎたい」と述べました。今後は、本学から講師を派遣し助言をしたり、本学で授業を行ったりして地域課題解決に向けた取り組みを進めていきます。

④ 高校生のキャリア教育への支援

2014年には松代高等学校のキャリア教育への支援として、本学が受け入れ窓口となって松本地域においてキャリア教育プログラムを実施しました。単なる会社の見学にとどまらない、高校生が将来の進路を考える機会として位置づけ、午前中は本学を会場に企業経営者によるシンポジウム、午後からは企業への訪問というプログラムとしました。地域企業を巻き込み、高校生には進路選択を身近なものとして意識してもらいたいという目的で取り組み、高校におけるキャリア教育に一石を投じましたが、企業側の理解も十分とは言えず、対象とな



グループディスカッションの様子

たのが高校1年生だったこともあって課題も多く残りました。

この経験を踏まえて、この11月28日には穂高商業高等学校の1年生120名を対象として新たなキャリア教育プログラムを実施しました。今回は、高校及び中小企業家同友会と計画段階から綿密に協議し、職場を体験したり、見学するのではなく、そこで働く人と出会い、その思いや実際の姿に触れ、「働く」ことの面白さや意義を知ってもらいたいという趣旨で実施しました。午前中は高校生を5名から15名程度の小グループに分け、20社に分散して訪問してもらい、単



説明に聞き入る生徒たち

なる企業見学ではなく、経営者や若手社員とのディスカッションを行いました。午後からは本学に集まり、大学の講義の体験も兼ねた模擬講義として、グループディスカッションによる体験の共有を大学生や企業の方も一緒に行い、さらに学びを深めました。まだ1年生とはいえ、企業の方の熱い思いに触れ、より地元で活躍したいという思いを強くするなど、地域を支える人材育成につながる成果をあげることができました。

⑤ 大学生の学びにつながる高大連携事業

2008年から開始された、人間健康学部による岡谷東高等学校との連携事業は、教職課程を履修する学生の学校現場学習として位置づけられています。一般的に高校生を対象として意識した高大連携事業が多い中で、大学

生の学びに直結する取り組みとなっています。（詳細はP4にて説明）前述の「デパートサミット」事業においても主に「ゆにまる」の学生がグループワークのファシリテーターとして参加したり、大学生自ら「デパートゆにっと」にお

いて開発した商品の販売やカフェの経営を行うなど、大学生自身の学びとしての機会となっています。高校生と大学生が同じ場を共有し相互に学びあうという新しい高大連携事業のきっかけとなることが期待されています。

高大連携の今後のあり方と課題

大学に進学する長野県内の高校の卒業生のうち、県内の大学に進学する生徒の割合である残留率は、2000年に全国で最低の7%に過ぎず、100人のうち93人が県外に流出し、大学を卒業後、県内に戻る若者はその半数にも満たないとされていました。その後松本大学を含む大学が新設されるなどして残留率は倍以上に改善されたものの、全国平均の44%には程遠くなお全国的に最低クラスの水準にとどまっています。長野県の未来そのものが危うい状況であると言っても過言ではないのが現状です。

2002年の開学以来、「地域を担う若者を地域で育て地域に還す」ことを建学の理念とする本学にとって、若者の地元への定着は重要な課題です。したがって、高大連携への取り組みも当然若者の地元への定着を促すという問題意識に基づき、高校と大学が連携して将来地元を支える若者を育てるという試みに他なりません。

今後は、単位互換などの高大連携教育のシステムを整備することなどを通じて、高校と大学で5年間ないしは7年間の一貫した教育の可能性について考えていかなければならないと考えます。

〈穂高商業高等学校との連携事業〉 13年目を迎えた高大連携事業

高大連携推進委員長・松商短期大学部 商学科長 山添 昌彦

蒼穹第81号には「穂高商業高校と連携協定に調印」との見出しがあり、2006年2月4日に調印された長野県穂高商業高等学校と松本大学松商短期大学部との単位互換を含む高大連携協定について全10項目にわたる具体的な連携事業内容が紹介されています。この協定に基づき、2006年度から実際の連携事業がスタートし、以来、今年度13年目を迎えています。この間の2つの連携事業について紹介します。

1. 高校授業 グレードアップ型連携事業

穂高商業高校3年生のうち、すでに日商簿記検定2級を取得した生徒10～20名に対して、本学の教員が同校を週1回訪れ、検定1級の「会計学」および「原価計算」の授業を毎回105分間、年間20～24回実施しています。この授業だけでは1級合格には届かないのですが、この授業をきっかけに、さらに勉強を続ける意欲を醸成し、結果として進学意欲の向上につながっています。



受講生徒より

「高校で学習している簿記の発展的な内容で、未知の部分が多く結構やりがいがありました。」

ありました。」「新しい1級の分野を一つ一つ丁寧に教えてくれてとても分かりやすかった。」「自分が大学に行く上ですごく為になった。簿記会計の知識と考え方がすごく身についたと思う。」「内容的に難しかったが、考える楽しさを感じることができた。今後も継続して勉強したい。」「めちゃくちゃ難しいところもあったけど、解けた時の達成感は大きなやりがいになった。」「自分のレベルでは授業についていくのがやっとだったけど、いい経験になった。」「自分の限界を感じた。」「難しくて眠くなった。」（終了時アンケートから抜粋）

2. 大学授業 チャレンジ型連携事業

例年、穂高商業高校2年生100名前後が、高校の夏休みと春休みの各3日間、本学で大学の授業にチャレンジしています。具体的には、大学・短大で行われている一般的な経済・経営・商学の基本8～10科目を、高校生用にアレンジした内容で、1コマ60分、

1日4コマ、夏・春各3日間の時間割で講義しています。大学における学びの展開、高校での学習意義の再認識、また、同時に、教室移動や学食利用などを疑似体験し、一般的かつ具体的な大学生活をイメージできるようにしています。最近では、穂高商業に加えて、諏訪実業高校の生徒も参加し、日程さええば、他校の生徒の参加も歓迎しています。



参加生徒より

「校舎が大きくて広くてきれいで、学食も充実していて楽しかった。スライドや黒板を見て話を聞くという授業で、高校での黒板を書き写す授業とは違って、自分の力で大切な所を読みとり、メモするところが難しかった。」「高校とは違う形での授業は、とても新鮮で学ぶことも多く、これからは活かしていけることがたくさんあった。」「実際の授業を受けることができ、学食も体験できて、大学のイメージがはっきりしてきた。」「高校の授業よりも10分長いだけなのに、結構大変だった。大学では90分授業が当たり前と聞いて、集中力が持つのか心配になった。」

（終了時アンケートから抜粋）

〈岡谷東高等学校との連携事業〉 学校現場での体験がさらに学びを深める

スポーツ健康学科 教授 岩間 英明

9月9日からおよそ1週間、長野県岡谷東高等学校において、教職課程を履修している3年生延べ13名が「学校現場実習」を行いました。この活動はスポーツ健康学科が平成20年に同校と締結した高大連携協定の一環として、昨年度からスタートした事業です。

学生が朝から高校へ出向き、下校時刻まで授業や部活動など先生方と一緒に様々な活動をしなが、学校現場を直接体験する機会となっています。連携当初は保健体育授業を参観し、授業分析を行っていましたが、大学の授業との兼ね合いで参観時間が確保できなくなったため、岡谷東高校の1、2年生が、年に2回ずつ本学で、1日4時

間の講義を受講するだけの連携となっていました。しかし、昨年、本学を平成24年度に卒業した土井康司教諭が高校側の高大連携担当となったのに加え、平成27年度卒業の青木香央理教諭も同校に赴任したことから、高校の先生方の負担を考えこれまで躊躇していた学校現場実習を展開させることになりました。

本学科の卒業生で学校現場に立っているのは現在100名を越え、さらにその中で正規採用は今年度の教員採用試験合格者を含めれば40余名となっており、本学における教職のパイオニア、そして教育学部開設の礎ともなっています。そうした背景もあり、この事

業では本学科で教職を学ぶ自覚や、意識を高めることもねらいの一つとなっています。

学生はこれまで小学校や中学校での数時間の学習支援や、大学での模擬授業を何度か経験してきていますが、やはり、丸一日を実際の学校現場で過ごすという緊張感、これまでの経験や普段の学生生活とは全く違います。しかし、その緊張感こそが大学の教職課程のどんな科目でも決して学ぶことのできない貴重な経験となると考えています。

学校現場実習を経験した学生は、異口同音に「先生は大変」と言います。同時に「やっぱり教員になりたい」とも口にします。この経験が確実に学びのエネルギーになっているのだと思います。2月には今年度2回目の学校現場実習が予定されています。学生が今度ではどんな体験をし、どのような変貌を遂げるか楽しみです。

長野県議会と松本大学が包括連携協定を締結

長野県議会と松本大学、松商短期大学部は10月24日、県政の意思決定を行う県議会と知的資源が集積する大学が包括的に連携し、地域課題の解決、魅力ある地域づくりの推進、人材の育成に資することを目的に包括連携協定を締結しました。この協定は本学の他、県内5大学・2短大が締結しました。

県議会の清沢英男議長は、「議会と大学が協力することで県政に貢献したい」とあいさつし、住吉廣行学長は、学生に県政への関心を高めてもらう良い機会とするとともに、大学として防災や地域経営等について意見交換、提言を行うことができればとの考えを示しました。具体的な協議の場は、今後、設けられる予定となっています。（地域連携課長 赤羽 雄次）



文部科学省選定事業 私立大学研究ブランディング事業



「健康旅行」というコト消費の商品開発をめざす ヘルスツーリズムモニターツアー

11月22日、23日の両日、茅野市白樺高原の株式会社池の平ホテル&リゾートにて、健康を意識した旅行「ヘルスツーリズム in池の平リゾート」のモニターツアーを実施しました。これは、2019年度の松本大学研究ブランディング事業の一環であり、今夏より企画し打ち合わせを重ね、実施に移したものです。

モニターとして今回参加いただいたのは、東京に本社を置く株式会社ビジネスコンサルタントの社員の皆さんで、日本全国の営業所にて日々企業向けコンサルティングの営業活動を行っている、20代から30代の男

女41名でした。まだまだ体力に自信がありそうな年齢層の皆さんでしたが、本格的な健康指導を受けるのは初めてということで、高いモチベーションをもって参加来場されました。

モニターの参加者は、それぞれ全国の営業所よりホテルに集合し、支店会議後の午後2時半より健康運動指導のプログラムが始まりました。体重、体脂肪率、血圧、腹囲、握力、柔軟性、脚筋力、持久性体力等の測定や、活動量計をつけての歩行測定やウォーキングフォームの確認など幅広い運動メニューをこなしていただきました。また、食事指導なども含め全ての数値を記録しながら、一人ひとりが日頃の運動や食事のチェックを受けつつ、皆で笑いながら和やかに語り、日頃の営業ストレスなどを忘れて楽しいひと時を送ることができたようでした。

夕食時には、データ入力された個人の記録シートを配布し、池の平ホテル&リゾートの健康運動指導士のリーダーである小澤ひかるさん（本学スポーツ健康学科卒業生）の説明を聞きながら、自身の健康について談笑する時間となりました。また夕食の席では、観光ホスピタリティ学科益山ゼミ所属の学生2名が聞き取り調査を行いました。日頃の運動についての振り返りや、健康を意識した

観光ホスピタリティ学科 教授 益山 代利子



旅行商品の可能性に関して参加者から意見を集めました。

以上が、研究ブランディング事業に関連して企画したモニター事業の概要です。今回実施した健康づくりの内容とモニター調査が評価され、同社のコンサルティング事業のなかに採り入れられるようになることを大いに期待したいと思います。

今後、このような科学的データを基にした運動指導を組み込む旅行を、本学が主体的に行いスポーツ健康学科と観光ホスピタリティ学科が協同で「健康旅行」というコト消費の商品開発を行う良い足がかりを得ることが出来ました。



長野県の活性化と大学の役割を考える —「人の循環」と社会の高度化への対応—

松本大学 学長 住吉 廣行

少子高齢化の進展と 都市一極集中による地域衰退の危険性

増田レポート「地方消滅」(中公新書)の影響も大きく、東京一極集中を緩和するため、東京23区内の大学に対する入学定員抑制策が、期限付きとはいえ実施されました。また定員遵守の厳格化も進み、地方中小規模大学にはプラスの影響が少しは出ているようです。

少子高齢化が急速に進む日本で採られる対策は、世界中から注目されるでしょうが、翻って、長野県は?松本市は?と、足下も見ておく必要があります。今年度の長野県6月議会で、増田県民文化部長が議員の質問に答弁していますが(県民新聞7月5日)、それを踏まえ本学及び長野県の活性化への課題を考えてみたいと思います。

地域活性化の二つの必要条件

ところで、地域が活性化するには何が必要でしょうか?まずは域内での「人の循環」の実現です。次に、多くの自治体が試みている「経済の循環」の実現です。後者の例として、岡山県のある山間地域を紹介します。森林資源に目を付け、ペレットを作り、それを燃料とするストーブの生産工場も造りました。ガソリン購入など流出するカネを削減し、自前でバイオマス・エネルギーを調達。工場では「労働者を雇用(=人の定着)」、ペレットやストーブを製造・販売して域内の「収入を増加」させ、地域活性化に貢献しています。

「人の循環」に国公私大はどのような役割を果たしているか

さて、ここでの問題は「人の循環」の方です。地域からの若者の流出は、18歳(大学入学時)と22歳(就職先決定時)にピークがあります。長野県では大学進学者(進学率39.5%:全国平均約50%)の内、県内大学への進学割合(県内残留率)は17.1%と極めて低く(全国平均44%)、全国で下から5番目に位置しています。その実態は、県民文化部発表及び各大学公表のデータから、右表のようになります。

この表からは、私立大学が791名と全体の47%近くの県内高校生(浪人生を含む)を受け入れていること、公立4大学の受入数(344人)よりも松本大学1校(408人)の方が多く、「人の循環」という視点からは、地方私学の果たす役割の大きさが分かります。表にはないですが、公立化以前の受け入れ比率は、長野大で74.7%、諏訪東京理科大は38.4%であったため、「人の域内循環」という点で、私大公立化のデメリットは明らかです。

形態	大学名	入学定員	入学者数	県内学生数	県内学生比率	県内学生数	県内就職率
国立	信州大学	1,978	2,039	548	26.9%	548	39.3%
公立	長野県看護大学	80	85	59	69.4%	344	69.8%
	長野大学	340	344	100	29.1%		
	諏訪東京理科大学	300	311	87	28.1%		
	長野県立大学	240	244	98	40.2%		
私立	松本歯科大学	96	85	5	5.9%	791	79.5%
	松本大学	420	496	408	82.3%		
	佐久大学	90	85	69	80.8%		
	清泉女学院大学	156	150	139	92.7%		
	長野保健医療大学	175	175	170	97.1%		

表. 2019年度県内大学の「入学定員」「入学者数」「県内学生数」と「残留率」及び設置形態別県内就職率

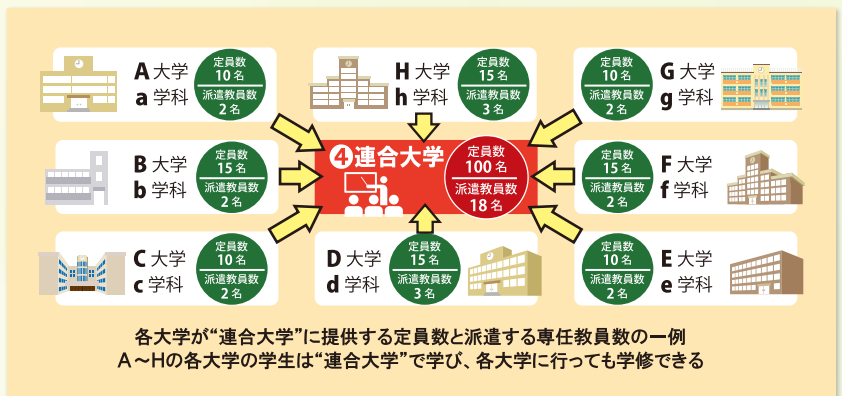
県内大学の収容力向上は緊急に必要 – 本学での魅力向上の可能性は –

もう一つ、県議会で明らかになった大きな問題点があります。県内私学の最近の収容定員増の取り組み(松本大学:教育学部80人、総合経営学部10人、人間健康学部10人、清泉女学院大学:看護学部76人、長野保健医療大学:看護学部80人)にも関わらず、県内残留率は17.1%に低迷していることです。一方、県内高校生の県内大学進学希望は県の調査で25.6%です。この差8.5ポイントは、いくつかの仮定の上ですが、県内高校生約630人の収容力不足に相当します。県民文化部長の答弁にもあるように、学部・学科増など収容定員を増やす取り組みへの支援が必要です。それには、私大への投資が最も有効であることは表からも明らかです。しかし、県内私大5校の内、定員を充足しているのは2校(他の3校は僅かではありますが定員割れが生じています)ですので、ただ630人分増やせばよいというわけではありません。社会的ニーズに応え、高校生の必要度も高い分野を持つとか、優れた教育手法などその魅力をアピールできる大学でなければなりません。

遠くない将来18歳人口が今より30%も減少するといわれる一方、高度化・複雑化する社会にあって、「地方消滅」傾向に抗って地域活性化を企図するとすれば、**大学進学率の向上**(43%程度へ)、**県内残留率の向上**(30%程度へ)を計り、「高度人材の域内循環」を大きく改善する必要があります。そのために本学は何ができるか?本学での入学試験の現状からは、総合経営学部において少なくとも**60~70名規模の定員増**(できれば学科増)対策が求められているのではないかと思います。現在の受験者層に加え、これまでとは異なる志向をもつ高校生

をターゲットにした分野も準備し、県外流出を食い止める必要があります。何もせず指をくわえて静観しているだけでは30%レベルのスピードで地域は衰退する一方で、都市一極集中が加速するばかりです。

また私大協「地方創生小委員会」では、地方都市で模索される新しい形の“**連合大学**”を提唱しています。これは「いくつかの大学(親大学と呼ぶことにします)が、少人数ですが、自学の定員をこの“大学”のために用意します。それら親大学からの申し出を加え合わせた“複数の学科と合計した定員”を有する“連合大学”を誕生させ、学生は地方都市にある“大学”のキャンパスで学ぶ」というものです(図参照)。学生にとってのメリットは「学科の異なる多くの親大学の学生と毎日交流ができ、時には多様な親大学のキャンパスへ出かけ、授業も多角的に受けることができる」ことです。こうした“連合大学”に、本学でも増加させた定員の一部を提供することも考えられます。



日本私立大学協会「教育学術充実協議会報告書—私立大学の将来像—」より

県内就職率は人の域内定着の指標 – 重要なのは大学の人材育成方針 –

次に、22歳時点で県を離れることへの歯止めについてです。県内就職率についても県民文化部はデータを示し、国立は39.3%、公立は69.8%、私立は79.5%です。しかし、公立のこの数値には注意が必要です。というのも、公立大の卒業生は県立看護大を除き、私大だった時代に入学生が多いときのデータだからです。公立化以降は県外出身者が学生の多数を占めており、今後県内就職率の大幅低下は避けられません。公立化は「人の循環」という視点では、「入口」と「出口」の二重の意味で地域活性化にとっては痛手となってきます。残念ながら大学卒業後県内へUターンする割合は40%程度しかありません。これは、人の争奪戦が都市間でも熾烈に繰り広げられており、県や市も心して対策を打たねばならないことを示唆しています。

しかし、ただ地域内に残さずすれば良いのでしょうか。こうした人材はこれからの地域社会を背負って立つ中心に位置付けられることでしょう。「地域にとって何が重要なのか」の探究心を発揮して探りながら、その解決に向け必要な能力と強い意志を持ちあわせていることです。このような人材育成ができることも、地域に愛される大学となるための条件です。

高度化、複雑化する地域社会の課題解決に向けて研究機能の強化を

開学以来、松本大学の地域活性化への取り組みは、今では全国的にもよく知られるようになってきており、地域からの大学への要請も専門化・高度化してきています。それに応えるには、学生への「教育活動」としての地域連携の枠に加え、「研究活動」として課題を取り上げ、解決策が各自治体の政策に反映されるよう、研究機能の強化を図る必要を痛感しています。そのためにも、大学院の充実も視野に入れる必要があると思います。



時代のニーズを捉えた 本学のキャリア教育・就職支援の取り組み

2019年度インターンシップ事業の経過報告 本格始動したインターンシッププログラムに 47名の学生が参加

インターンシップ推進委員長 上野 隆幸

インターンシップとは、学生が企業や官公庁等の職場で実際に仕事を体験することを通して、その職業観を豊かにし、自らのキャリアプランやライフプランをより具体的に、そして現実化することを目的とし実施される、キャリア教育の一施策です。しかし近年では、学生のキャリア形成を目的にするに留まらず、就職活動の一環として実施されることも多くなるなど、その可能性や目的は多様化しつつあります。併せて国の施策も、インターンシップの拡充に基づく、学生に対するキャリア教育の充実に顕著に進みつつあります。このようなインターンシップの重要性の高まりを受け、本学では、本年度よりインターンシップ推進委員会を設置し、全学的にインターンシッププログラムの

展開を開始いたしました。本年度は27の企業、自治体、団体等の皆様が学生の受入れをご快諾いただき、47名の学生がインターンシップに参加しました。ここでは本プログラムの特長をいくつかご紹介します。

第一は、夏季休業中の8月、9月の中で5日間のインターンシップに参加するという点です。在来の多くのインターンシップは半日、または1日という短い期間で実施されていますが、本学のインターンシップではその本来の主旨に鑑み、5日間のプログラムを設定いたしました。当初、学生は長いという印象を持ったようですが、実際に実習に臨むと、あっという間の5日間だったようです。

第二は、充実した事前研修(6月、7月)及び事後研修(9月、10月)の実施です。「実際の

職場」に赴く以上、学生に最低限のマナーやルールを身につけてもらうことはもちろんのこと、明確な目標を設定してもらい、効果的なインターンシップとなるよう、事前に指導を行いました。加えて、事後研修では自らの実習を振り返り、その内容を他者に



伝えることで、インターンシップの効果を更に高めることができました。

第三は、実習ノートの作成です。学生は受入れ先の担当者と実習ノートを通じてコミュニケーションを図りますが、自らの気づきや考え、疑問をまとめ、投げかけること、反対に担当者の視点から問題点を指摘いただき、場合によってはお褒めの言葉を頂戴することは、学生が社会人として成長するために大変効果的に機能しました。

第四は、プログラムを修了した学生には単位が付与される点です。本プログラムは文部科学省の大学設置基準に基づき、単位認定に必要な時間数が確保されています。これにより、松商短期大学の学生に対しては今年度から、また総合経営学部、人間健康学部、教育学部の学生に対しては2021年度(現1年生)から、修了者に対しそれぞれ単位が付与されます。

なお、このインターンシッププログラムの報告会を12月20日に開催する予定です。学生の学びと成長した姿が見られるのを楽しみにしております。

最後となりますが、学生を受入れていただいた企業、自治体、団体等の皆様、さらに実際に学生に対するご指導を賜りました御担当者の皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

(2019.12.3記)

～就職活動スタートに向けて～ 夏季就職合宿を実施！

約半年後に本格的な就職活動が始まる学部3年生を対象に、9月5日、6日、及び9月12日、13日の2回に渡り夏季就職合宿を行います。延べ108名の学生が参加しました。プログラムの中の面接対策講座では、企業人事担当者に面接官としてご指導いただき、実践しながらの体験をすることができました。また、先輩学生スタッフから後輩へ自身

の体験を伝え、就職活動をイメージするための機会にもなりました。

2日間グループに分かれて活動し、面接や討議などを通じて学生同士が交流したことも、目標を共有できる良い機会になったと思います。今回の合宿を通じて、各自が気付いた課題の解決に取り組み、就職活動のスタートを切ることを期待しています。

保護者向けの 就職説明会を開催

10月19日に各学部3年生の保護者の方を対象とした保護者就職説明会を開催し、178組220名の皆様にご参加いただきました。今年度は教育学部が初めて加わったほか、例年対象としている3年生に加えて、総合経営学部、人間健康学部は2年生の保護者の方も対象としました。



昨今の就職状況などを踏まえ、就職活動準備のポイントを説明し、特に最近はインターンシップが採用活動の一環となりつつある点を強調しました。また、先輩学生の体験報告では、就職活動中の実情や本音にも触れ、家庭でのコミュニケーションが大切なことが確認できました。

学部毎の分科会では、就職実績や学部特性に応じた準備の必要性などについて解説しました。学生のより良い進路選択を考え共有する、有意義な機会になったと思います。

(キャリアセンター 課長 中村 高士)



努力が大きな成果に！ 教員志望の学生へ全学的なサポート実る！！

総合経営学部・人間健康学部教職センターは、教職課程を履修している学生に、教職全般の指導と教員採用試験の支援を行っています。今年度は、例年以上に採用試験の結果が良かったこともあり、10月11日に、合格者数名との座談会を開催しました。

座談会では、合格の秘訣は何か、先生方の指導がどのように役に立ったか、合格までの苦労は何かなど、教職を目指す後輩への激励メッセージがありました。

(全学教職センター長 山崎 保寿)



Q. 合格したときの心境はいかがですか？

大平 採用二次試験に合格したときは、涙が出るくらい嬉しかったです。今は、教師になってからのことやどのように授業をすれば良いかに気持ちが向いています。

菅沼 私も、合格が分かった瞬間はとても嬉しかったです。今は、まだスタートラインに立ったばかりなので、来年度の不安はありますが、担任や授業の教え方のことを考えています。

Q. 教師を志したきっかけは？

新原 高校まで部活で陸上をやっていて、マネージャーの経験から、選手を支える大切さが分かりました。子どもを支える教師の仕事は、自分の能力を生かせる仕事だと思ったことがきっかけでした。

大平 私は、高校時代の先生が熱心で、学習の楽しさや検定に合格することの達成感を知りました。最初松商短大に入ったので、学習することの楽しさを生徒に教えることができる職業として教師を目標にし、総合経営学部に入塾して教職を取ることに決めました。

Q. 合格まで大変だったことは？

菅沼 陸上の大会で土日に遠征したときは、宿でも教育採用試験の勉強をしていました。1年前は、受験まで長いと思っていましたが、あっという間でした。もっと勉強できたとも思いました。

大平 アルバイト(水泳指導)も教育採用試験に役立つ部分があるので、勉強と思って続けました。4月に受けた検定(応用情報)も勉強になりました。

Q. スランプやストレスを感じたときはどのようにしましたか？

新原 スランプのときは、友人(菅沼)の存在が大きかったです。明星大学の通信教育と一緒に受けていたので、互いに声を掛け合っていました。また、スランプの時は、ゼミ室に行き、気持ちを切り替えました。

Q. 学習の工夫は？

大平 範囲を決め予定帳に書いて勉強しました。1ヵ月後に自分の決めた範囲を終了したか過去問で確かめるようにしました。

菅沼 問題を解き、苦手分野のノートを作りました。算数→理科→社会というように、1問ずつ教科を変えて勉強したことが自分に合っていました。

新原 私は、参考書に書いてあることをノートに色づけしてまとめました。1ヵ月の予定を立て、勉強したことが見えるようにしました。

Q. 松本大学の指導で役立ったことは？

菅沼 一次試験は木曜5限の教育採用試験対策講座での「力だめし」が役に立ちました。自分がやってないところが出たり、勉強の目標につながりました。二次試

験は模擬面接が非常に役立ちました。一次試験は小論文添削です。二次試験では模擬面接で、面接の場面に慣れることができました。

大平 やはり、一次試験は小論文添削、二次試験では模擬面接です。模擬面接では、小松茂美先生が高校の授業の観点から、大野整先生が商業の観点から助言してくださり、複数の視点から自分の模擬授業を見直すことができました。

Q. 後輩へのアドバイスをお願いします

菅沼 ぜひ自分のやり方を貫いて、手厚い先生方のサポートを活用して下さい。

新原 勉強は自分なりの方法を見つけることが大切。勉強と息抜きのバランスをとって、やるときはやること。

大平 教員採用対策や勉強の方法をいつでも教えます。先輩や先生方とのつながりが大切です。

— 公立学校教員採用試験合格者 —



武本 麻里奈さん 村上 量子さん 菅沼 真洗さん 新原 徳子さん 大平 菜美加さん

ありがとうございました。梓友会(教職に就いている本学卒業生の会)を通じて、今後も後輩のために教職採用試験や学校の情報を伝えて下さい。卒業後は、教員としての活躍を期待しています。

2020年度公立学校教員採用試験の二次試験が終了し、過去最高となる5名の現役合格者が出ました。4年間の努力が、大きな成果につながりました。

総合経営学部・人間健康学部教職センターでは、M-TOP (Matsumoto University Teacher Oriented Program) を通してさらなる充実を目指し、教員を目指す学生達を支援していきます。

公務員・教員採用試験結果速報

(2019年12月2日現在)

採用活動が短期間化した民間企業と異なり長期間にわたる、公務員試験や教員採用試験もようやく終盤を迎えています。今後も続報や臨時採用などで合格者がさらに増えていくことが予想されます。

〈公務員採用試験合格状況〉

長野県職員(管理栄養士)1名・塩尻市役所(上級)1名・塩尻市役所(中級)1名・諏訪市役所(上級)1名・佐久穂町役場(管理栄養士)1名・群馬県長野原町役場(一般事務)1名 計6名

〈公立学校教員採用試験合格状況〉(卒業生・補欠合格者含む)

長野県小学校2名・長野県高等学校(商業)1名・長野県特別支援学校1名・長野県養護教諭(義務)1名・長野県栄養教諭1名・東京都小学校1名・福島県小学校1名・富山県中学校・高等学校(保健体育)1名・石川県高等学校(商業)1名・静岡県高等学校(商業)1名・北海道養護教諭2名 計13名

地域連携活動

地域防災への取り組み

緊急報告 台風第19号災害に伴う 千曲川水害地域での災害ボランティア活動

地域防災対策委員長・
観光ホスピタリティ学科長
尻無浜 博幸

本学では、この度の台風第19号に伴い、千曲川の氾濫で被害が発生した長野市長沼地区(津野周辺)を起点に災害支援活動を展開しています。今回、起点とした津野周辺は、千曲川が決壊したもとの地区で最も被害が大きかった地区で災害ボランティア活動に参加した学生は、「身近でこんなに大きな被害を受けていたとは思ってもみなかった」と口々に言っていました。



千曲川水害被害がニュース等で報じられるやいなや、学内の地域防災対策委員会に東日本大震災時と同様の支援活動実施の声があり、教職員だけでなく学生からもあがりしました。そこで、本学としての取り組みについてすぐに検討し、現地での災害ボランティア活動と募金活動を行うこととしました。

募集した活動以外に各ゼミや部活動、知り合い等で支援活動に参加した学生・教職員は今回数多くいます。

災害ボランティア活動は、現地調査と道具等の活動準備を整え、その週の週末には学生共々、支援活動に着手することができました。このような動きができたのも東日本大震災の約6年間にわたる支援活動で得た経験があったからだと思います。

派遣6回目となる11月8日には、防災士を目指す学生70名が参加しました。次年度前期に計画されていた災害ボランティア等の実習演習を前倒して対処したもので、災害現場を肌で感じる良い機会になったものの、一方では、防災士としての機能の難しさを直接知ることもありました。今後の学びをさらに深めていってほしいと思います。

被災地を訪問しているとその変化に気づくことができます。息のながい活動すること自体に意味があることも先の大震災で学びました。当たり前のことですが、私たちの身近には学生がいます。まず学生に働きかけることによって、彼ら彼女らが主体的に今回の災害を捉えてほしいと望みます。そのことが今後の社会の在り方や自分の学びに展開することができれば、今回の千曲川水害支援から学びがあると思います。今後も続くであろう支援活動に引き続きご理解を賜りますようお願い申し上げます。

被害発生から約2ヵ月が過ぎようとしていますが、これまで8回の派遣を行い、活動に参加した学生は延べ161名、教職員は延べ30名になります。もちろん、大学で

支援活動の内容は変化します。初めの頃は家に堆積した泥のかき出しや家財道具の運び出しが主でしたが、その後、リング畑での作業に移り、最近では畑の整地化が主になっています。繰り返し繰り返し



このたびの台風19号の災害により、被災された皆様ならびにそのご家族の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。少しでも力になれるよう災害ボランティア活動、募金などを通じて教職員一同、後援会も支援していきたいと思っております。一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

災害支援の続報

岐阜聖徳大学硬式野球部と本学硬式野球部の合同総勢140人で、12月8日に長野市穂保地区で、災害ボランティア活動を行いました。作業内容は、落ちたリングやがれきの撤去・木の根の周りの土の撤去作業です。選手たちはこの活動を通して、日頃の生活や

部活動を行えることが決して当たり前では無いということを認識できた一日になったと思います。まだまだ現地は、復旧というには程遠く、今後も可能な限り支援を続けていくことが必要であると強く感じました。

(硬式野球部 監督 清野 友二)



大学資源を活用した2019年度公開講座

地域住民が松本大学で元気に筋力あっぷ

本講座は、地域力創造・地域貢献を目指す2019年度の公開講座の一つとして開催しました。大学の施設資源活用によるトレーニングマシンを使った実践講座(週1回全9回コース)です。

筋肉は年齢と共に確実に減少します。特に20歳を過ぎると50歳までに約5~10%減少し、50~80代までに40%近くの筋量が減少すると言われています。この加齢に伴う筋量

の低下をサルコペニアといいます。この状態を放置すると日常生活に支障をきたすことになり兼ねません。メタボが気になる50歳代からロコモ予防が必要な方々に必須の運動方法の1つとして筋力トレーニングが注目されています。初心者から経験者まで、マシンを使って筋力をアップ、そしてもっと元気になっていただきたいと思って開講しました。現在参加者は、50代~80代の男女14名(男性8

名、女性6名)で、毎週およそ2時間あまり



のトレーニング時間を余すことなく和気あいあいと過ごしています。講師は本学の健康運動指導士(教員)が個々人に適した運動内容で、丁寧に無理なく安全に指導しています。また、健康栄養学科の学生も加わり、食事のとり方についての相談も受けています。

今から終了後の効果測定(血管年齢、体脂肪、握力、片足立ち、呼吸筋)が楽しみです。

(スポーツ健康学科 准教授 山本 薫)

地域づくり考房「ゆめ」

第5回あるぷすタウン開催

あるぷすタウンは、子ども達が仮定の街で働き、遊びながら社会の仕組みを学べる「子どものまち」と呼ばれる取り組みです。ドイツの「ミニミュンヘン」を発祥とし、日本各地でも開催されています。実施主体は子ども・子育て支援団体や自治体など様々で、開催意図も多様です。あるぷすタウンでは、本学学生が実行委員となり、「参加する子ども達の主体的・体験的な学び」「実行委員が子ども達の学びの場づくりを実践する中での学び」の2つの学びを軸としています。また、企画運営にあたっては、地域の企業・団体・個人や高

校生の皆様にご協力いただいています。本来は2019年2月に第5回目を開催予定でしたが、インフルエンザの流行を受けて中止とし、9月15、16日に延期となりました。当日は、松本市や周辺地域の小学4年生~中学3年生延べ133名が参加し、本学学生は実行委員22名、当日運営補助スタッフ延べ55名が参加しました。例年と比べ規模は縮小しましたが、実行委員たちは「子ども達が将来について考えるきっかけや人との関わりを学ぶ場作り」を目的とし、子ども達が楽しみながら学べる場をどう作るか話し合いを重ねました。従来の方法から「体験の導入・振り返り」「体験ブースの連携」「タイムスケジュール」



子どもたちとの集合写真

の3点を大きく変更し、特に振り返りは、これまでアンケート記入が主でしたが、子ども達一人ひとりが体験した内容や感想、学びを発表できるよう5~6人の小グループで話し合う時間を半日ごとに設けました。実行委員が直接子ども達の声を聞ける場にもなり、次回の改善へ繋げられる試みとなりました。今後も、多様な学びの場として継続していけるよう支援したいと思います。

(地域づくり考房「ゆめ」 上川 由香里)

地域健康支援ステーション

そばガレットの調理実習を実施

塩尻市社会福祉協議会床尾分会からの依頼で、10月24日に秋の味覚を楽しむ料理講座を行いました。毎月実施している健康運動教室の一環で、7月の「骨粗しょう症予防の栄養講話」を受けて、今回は昼食を兼ねてカルシウムを摂るをテーマにした調理実習としました。



ガレットを焼く手を止めてポーズする参加者の方々

参加者からリクエストされた「そばガレット」は牛乳やチーズを使ってカルシウムが摂れるように、「きのこのポタージュ」「大根とリンゴのマリネ」は今の季節どのお宅の冷蔵庫にもある食材を使った手軽にできる料理で、みんなで調理したあと楽しく試食会となりました。「目先が変わっておいしいね」「さっそく今夜の夕食に作ろう」などと大変喜ばれました。(管理栄養士 飯澤 裕美)

お元気づくり講座でのレクリエーション指導

塩尻市社会福祉協議会より依頼を受け、今年度高出地区で2回のお元気づくり講座でレクリエーションの指導をしました。春に次いで2回



高校生と一緒にレクリエーションをする高出地区の皆さん

目となる11月6日の講座には、実習で訪れていた塩尻志学館高校の生徒さんも一緒に参加して、延べ50名でにぎやかに実施することが出来ました。はじめに、隣の人と手をつないで行うゲームをすると、高校生と手をつなげた方はとても嬉しそうにしていました。少し体が温まってきたところで、2つ以上の課題を同時に行うことで脳トレにもなるレクリエーションを体験してもらいました。中でも足踏みをしながり返数を数え、3の倍数と5の倍数の時に手をたたき身体と脳を同時に使うというレクリエーションでは「これは難しい!」「間違えて一人で目立ってしまった」など、たくさんの笑い声や感想を聞くことが出来ました。(健康運動指導士 土井 麻弓)

花をテーマに「一日限りのレストラン」

健康栄養学科 専任講師 成瀬 祐子

平成22年より、大学の授業や実習での学びをより深めることを目的に開催している今年の「一日限りのレストラン」には健康栄養学科の1~4年生54名が参加し、



9月29日に本学で開催しました。今年は「花・華・葉菜(はな)」をテーマに、花や華やかさにこだわった料理とサービスを考案し、提供しました。野菜を花やブーケに見立て5品を盛り合わせた前菜の「花の便り」、赤パプリカのポタージュに花形のメレンゲを浮かべた「パプリカの花」、ハーブやスパイスの使い方に工夫を凝らすとともに、食用花で華やかに仕上げた魚料理と肉料理。デザートは、6月の信州夢街道フェスタのスイーツコンテストで優秀賞をいただいたバラをテーマにしたスイーツをさらにブラッシュアップしました。

半年近くかけて準備してきた料理や室内の装飾と練習を重ねたフロアサービスに、お客様が驚き、楽しみ、美味しいと召し上がってくださったこと、また定員80名のところ390名もの応募をいただいたことが、学生たちの今後の大きな自信につながったと思います。



今年も「フラ・イズ・アロハ」を開催

観光ホスピタリティ学科 教授 山根 宏文

観光ホスピタリティ学科山根ゼミでは、活動を継続している松本大学東日本大震災支援プロジェクトの活動に対して、ゼミで出来る活動として2012年からフラ(ダンス)イベントを開催し活動資金を捻出しています。今年は9月21日に開催しました。



ハワイから著名なミュージシャンを招き、活動資金の捻出だけでなく、地域の方々にハワイ文化紹介・国際交流・国際文化理解の実践をしています。ゼミ学生には、イベントプロデュースを学ぶこと、そして、ハワイアン音楽を生で聴いてもらっていますが、ほとんどの学生は初めての体験のようです。また、子供たちは無料にして本物にふれてもらう機会としています。

今回も合わせ9回の開催で合計4,900名の参加があり収益金合計は約212万円となりました。この収益金は、すべて松本大学東日本大震災支援プロジェクトへ寄付しました。

これだけ長く続けられたのは、最高レベルのミュージシャンを招聘したこと、趣旨に賛同していただいたフラ愛好者の皆様、運営を毎回手伝ってくれた学生、そして大学からあの支援のお陰です。

ご協力いただいたすべての皆様に心から感謝いたします。



学びの風景 地域とともに

地域をフィールドにした実践的な学びをご紹介します。

医療的ケアが必要な子どもたちと学生がともに楽しむ

観光ホスピタリティ学科 専任講師 今村 篤史

「医療的ケア」が必要な子どもたちがいます。病気などにより、酸素吸入や経管栄養、痰の吸引などが日常的に必要な、在宅で暮らす子どもたちです。彼らはケアが必要であっても、ひとりの子どもとして無限の可能性をもっています。

こうした子どもたちとその家族が旅を楽しみ、安心して過ごすことのできる場所として「軽井沢キッズケアラボ」が毎年夏に開設されています。そこでは、医療・福祉の専門職が常駐し、彼らをサポートしながらも、ケアをする・されるという枠を取り払い、さまざまな体験をともに楽しみ、新しいあたりまえを作り出しています。

私のゼミでは、ウェルビーイング(一人ひとりの権利や自己実現が保障され、良い状態にあること)を学びのテーマのひとつとしています。そこで、この学びを深めるため、軽井沢キッズケアラボに8月10日、17日、18日の3日間参加してきました。10日は子どもたちと葉っぱを使ったアートを、17日はさまざまな楽器や歌で音楽を楽しみ、18日には気球にも搭乗しました。気球は子どもたちのバギー(状態に合わせて背もたれを調整でき、人工呼吸器等の医療機器を積めることができる造りになっている車いす)も乗れるもので、家族みんなで乗り



こみます。学生たちは搭乗をサポートしたり、体験を終えた子どもたちを笑顔で出迎えたりと、一緒に楽しい時間を過ごしました。

医療的ケアが必要な子どもたちやその家族、そしてともに楽しむ専門職スタッフやボランティア、地域の人たちとの出会いと体験は、学生たちがウェルビーイングを考えていくうえでかけがえないものになりました。この出会いと体験から、今後さらに学びを深めてくれるものと期待しています。

健康栄養学科の学生が 長野県栄養士会の事業に参画

健康栄養学科 教授 廣田 直子
(公益社団法人長野県栄養士会 会長)

公益社団法人長野県栄養士会では、本年度、長野県元気づくり支援金の補助を受けて、高校生向け食育出前講座のテキストとして活用するレシピ集を作成することになりました。その活動に本学健康栄養学科の学生が協力しています。これは、若い世代の食行動に働きかけることをねらいとしていることから、松本地域の栄養士会会員、食生活改善推進員等に加え、食について学んでいる高校生や大学生の参加が求められたものです。松本第一高校食物学科の生徒と本学健康栄養学科3年生がこのテキスト検討ワーキンググループ会議メンバーとして、掲載するメニューの検討を進めています。今後、提案メニューやママ情報等の選定を他の組織の皆さんと共に実施していく予定です。

高校生・大学生
のメンバーから

『お財布にやさしく活用しやすい』を
テーマとしたレシピを募り、試作しました。



蒸し豚肉と野菜の甘酢かけ



炊飯器で豚の角煮



味付けカンタン親子丼



一口ティラミス

三大学合同ゼミナール in 伊那食品工業株式会社

健康栄養学科 准教授 藤岡 由美子

関東学院大学、
鈴鹿医療科学大
学、松本大学の
臨床栄養学研究
室による第1回
合同ゼミナール
が9月18日に開



催されました。関東学院大学の田中弥生教授は、健康栄養学科開設時の特別講師として一年に一度、鈴鹿医療科学大学の中東真紀准教授は、その後任として通年の講義を担当していただいております。本学と縁が深いだけでなく、お二方が伊那食品工業株式会社の井上修会長と旧知の間柄であることから、一堂に会するという念願が実現しました。

当日は、井上会長による社是と社員の心がけについての講演後、日本初の寒天レストランで提供される松花堂弁当をいただきながらランチョンセミナーが行われました。演者は、調剤薬局で在宅訪問栄養指導を開始した株式会社エムワンの立木亜依管理栄養士と、アメリカで登録栄養士の資格を取得し日本のクリニックで栄養指導に従事されている株式会社ジーケア宮崎拓郎代表取締役から、アメリカの大学や臨床教育について情報提供がなされました。

次年度は、2日間の合宿で学生の研究発表会を開催することが決まり、当研究室の3年生は既に発表会の準備を始めております。いずれは産学・大学間協働による教育や研究に発展させられるよう成果を積み上げていきたいと思っております。

研究室紹介

健康科学研究科・スポーツ健康学科
准教授 新井 喜代加

スポーツにおける ジェンダー平等の実現を目指して

誰もがジェンダー(性別)に囚われず、自己の身体を解放し、能力を存分に発揮できるスポーツ界の実現を目指して、私は、これまで、スポーツとジェンダー研究に取り組んできました。具体的には、法規、行政、政策、政治、制度などを扱う研究の手法を応用し、スポーツとジェンダーに関する政策や政策形成過程を明らかにしようとしてきました。

では、なぜこのような研究に足を踏み入れたのか。きっかけは、「タイトルナイン」でした。タイトルナインとは、学校における性差別撤廃を目指して、1972年に米国で誕生した法律です。同法が誕生するまでは、スポーツは男子のものでした。しかし、同法が施行されると、女子のスポーツ参加は劇的に上昇し、学校のスポーツシーンは一変したのです。このように米国スポーツに革命をもたらしたタイトルナイン政策はどのように実施されてきたのか。この疑問がスポーツとジェンダー研究を始めるきっかけとなりました。

となると、新井ゼミの学生はスポーツとジェンダー研究に取り組むよう求められるのかと言えば、そうではありません。ゼミ生には、スポーツ社会科学分野のおもしろい研究テーマを見つけてほしいと言ってい

ます。とはいえ、やはりスポーツとジェンダー研究の指導にはより力が入ります。小学校道徳の教科書や人気漫画作品の中で男女がどのように描かれているのか、そ



のジェンダー差異、ジェンダー秩序について考察した卒業研究では、どのような結果が出るのか楽しみで指導していた記憶があります。

最後に、本学に赴任し、約20年振りにスポーツ現場に復帰する機会を得ました。現役時代に比べ、今のスポーツ施設・設備、スポーツ用具、学生の練習着(ファッション)等は洗練されましたが、スポーツ組織体制は変わっていないようです。相変わらず女性は少なく、組織の意思決定を下す重要なポジションには男性ばかりです。日本のスポーツ界において男女共同参画の理念の具現化を阻害する要因は何か、このようなスポーツ界の永続を許すスポーツ政策自体が実は、その要因となっているのではないかと、このような問題意識のもと、新たな研究にゼミ生と共にチャレンジしたいと思います。

【経歴】筑波大学大学院人間総合科学研究科体育科学専攻博士課程単位取得退学。関東圏の大学の非常勤講師を経て2015年より現職。博士(体育科学)【専門分野】スポーツ科学(スポーツ政策論、スポーツ・ジェンダー論)【研究課題等】スポーツにおけるジェンダー平等

世界健康首都会議のセミナー報告

去る10月16日、17日、松本市中央公民館(Mウィング)を会場に、「第9回世界健康首都会議」が開催されました。「食」と「運動」～健やかにみんなでつながる～をメインテーマに、2日目には、本学大学院健康科学研究科の廣田直子教授がセミナー講師を務めました。

セミナーは、「シニアから学ぶ、シニアが学ぶ～食と健康～」をテーマに、現在、キューピー及び一般財団法人松本ヘルス・ラボと松本大学の三者が共同で取り組んでいる、野菜と卵の摂取に着目した健康的な食生活の提案のための研究紹介を兼ねて実施されました。



セミナーの講演では、シニアから若い世代に伝えてほしい「食事の形」、またシニア世代の食と健康に関する話題提供などに加えて、本年7、8月に実施された食生活調査に関する現時点での分析結果が報告され、30名余りの参加者が熱心に聞き入っていました。(副学長 等々力賢治)

30回目の記念すべき「留学生による日本語スピーチコンテスト」で本学の留学生が2位入賞!

11月29日ホテルブエナビスタで開かれた松本東ロータリークラブ主催「留学生による日本語スピーチコンテスト」に本学の交換留学生(中国嶺南師範学院)2名が出場し、スピーチを披露しました。見事2位に入賞したリ・ホウセイさんは、結婚式でのアルバイト体験を通して、笑顔の素晴らしさに気づいたことを満面の笑みで語り、聴衆を笑顔にさせました。もう1名の出場者、チョウ・ショウケイさんのスピーチは、「日本に来て何度もオニオン料理に挑戦するも失敗ばかり。でも、それが嬉しい。なぜなら、中国で

は失敗する機会がないから。中国の学生は寮で生活し料理はしないからだ」とユーモア溢れるものでした。そのほか7名のスピーチも、留学生ならではの視点を感じられ、会場では暖かい拍手が何度も鳴り響いていました。(松商短期大学部 准教授 中村純子)



学長賞受賞おめでとう!

10月23日に「学長賞」の授賞式が行われました。

本学では、学術・芸術・社会・体育・文化活動において他の模範となる成績をおさめた、または社会に貢献した学生、団体を表彰する「学長賞」を設けています。学長賞は、受賞者の栄誉を称えるだけでなく、学生の自主的な活動を促し、本学のさらなる活性化につながっています。



第10回(令和元年度)学長賞受賞者

(課外活動) 及川 輝さん (スポーツ健康学科4年)

- 2018年世界ラート競技選手権大会(スイス)日本代表 男子跳躍種目銅メダル
- 2017年及び2018年全日本学生ラート競技選手権大会 個人総合2連覇

(課外活動) 南澤 明音さん (観光ホスピタリティ学科4年)

- 第88回(2019年)日本学生陸上競技対校選手権大会 女子400mハードル8位入賞
- 2019日本学生陸上競技個人選手権大会 女子400mハードル準決勝進出
- 女子400mハードル 北信越学生新記録(59秒81) 樹立

●10月11日(金)～13日(日)に開催を予定しておりました「第53回梓乃森祭」は中止といたしました。

— 2019年後期 新たに着任した専任教職員紹介 —

〈新任〉

学校教育学科 専任講師
御代田 桜子



「地域と教育」をテーマに研究してきたこともあり、この松本大学で、大学教員としてのスタートを切ることができたことを大変嬉しく思っています。

教務課 主事
安藤 太郎



教務課へ配属されました安藤太郎と申します。一日も早く皆様のお名前を憶えて、業務を円滑に進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

キャリアセンター 主事
小谷 宗太郎



縁あって松本大学でお世話になることになりました。一刻も早くお役に立てるよう精一杯取り組みますのでご指導のほどよろしくお願いいたします。

入試広報室 主事
有川 咲



今までの経験を活かしつつ、幅広く色々な仕事にチャレンジしていきたいと思っております。ご指導のほどよろしくお願いいたします。

〈法人内異動〉

国際交流センター 専門員
船越 明香



前職は、県立高校のカリキュラムコーディネーターの仕事に携わっておりました。学生の留学相談、海外からの留学生を支援して参ります。よろしくお願いいたします。

学生課 主事
鈴木 康修



スポーツ健康学科を卒業後、6年半が経ち松商学園高等学校から学生課へ異動してきました。母校で勤務できることに感慨深い気持ちがあります。学生のために少しでも力になれるよう頑張りたいと思います。

総務課 主事
雪入 樹里



本学を卒業し、職員として母校に戻ることができ嬉しく思います。みなさんが充実した学生生活を送れるよう、陰ながらサポートしていきます。よろしくお願いいたします。

陸上競技部

南澤明音さん 日本インカレで見事8位入賞!

9月12日～15日に岐阜メモリアルセンター長良川競技場で行われた「天皇賜盃第88回日本学生陸上競技対校選手権大会」(日本インカレ)に400mハードルで出場した南澤明音さん(観光ホスピタリティ学科4年)が、見事8位入賞を果たしました。

南澤さんは本学入学後に400mハードルを始め、1年生の時に出場した「長野県陸上競技選手権大会」でいきなり優勝(その時の記録は1分04秒44)、以来、今日まで精進を重ねてきました。

その甲斐あって、日本インカレでは予選59秒91、準決勝59秒81(この記録は北信越学生新記録でもあります)と自己記録を連発し、決勝進出を果たしました。まだ、400mハードルを始めて4年目、今後の活躍が楽しみです。

(陸上競技部 監督 小松 茂美)



■第88回 日本学生陸上競技対校選手権大会結果

- 男子400mH 熊谷 悟
予選 1組7着 52秒74(予選敗退)
- 女子400mH 南澤 明音
決勝 8位 1分01秒06
準決勝 1組5着 59秒81
(自己新記録:北信越学生新記録)
- 予選 2組2着 59秒91

軟式野球部

第40回東日本大学 軟式野球選手権大会出場!!

長野県秋季リーグ戦で準優勝し、11月2日に開催された東日本大学軟式野球選手権大会(会場:神奈川県)に出場しました。一回戦は慶応義塾大学と対戦し、1回表に総合経営学部3年の池田駿斗選手のツーランホームランで、先制したものの、その後は相手に四球や死球で出したランナーを得点に結びつけられ、悪い流れが続きました。3回表に人間健康学部4年の清水真選手がソロホームランを放ち一矢報いましたが、3対10で7回コールド負けを喫しました。大会出場の喜びと、一回戦負けの悔しさをバネに、今後の活躍に期待します。

(軟式野球部 部長 濱田 敦志)



硬式野球部

硬式野球部秋季リーグ戦結果

関甲新学生野球連盟2部秋季リーグ戦が終了しました。結果は7勝4敗(勝ち点3)の第3位という成績でした。大事な試合や大事な場面での勝負

弱さが浮き彫りになったシーズンでした。弱点を克服し、来シーズンへ向けてしっかりと成長できるようこの冬の練習に取り組めます。沢山の応援、誠にありがとうございました。(硬式野球部 監督 清野 友二)

順位	大学名	関学大	常磐大	松本大	宇都大	新潟大	埼玉大	勝	負	勝点
1	関学大	○7-1 ○6-2	●0-2 ●8-1 ●5-2	○13-2 ○8-1	○6-0 ○11-4	○8-5 ○10-0	10	1	5	
2	常磐大	●1-7 ●1-8 ●2-5	○6-3 ○9-2	○3-1 ○3-1	○0-10 ○0-13	○14-2 ○11-1	8	4	4	
3	松本大	○2-1 ○1-8 ○2-5	●3-6 ●2-9	○6-3 ○8-2	○12-5 ○6-1	○5-0 ○9-5	7	4	3	
4	宇都大	○2-13 ○1-8 ○2-5	○3-2 ○1-11 ○1-7	●3-6 ●2-8	○8-4 ○5-2	○9-10 ○13-9 ○3-0	5	7	2	
5	新潟大	○0-6 ○4-11	○0-2 ○3-0 ○0-9	●5-12 ●1-8	○4-8 ○2-5	○4-1 ○1-0	3	8	1	
6	埼玉大	○5-8 ○0-10	○3-4 ○14-17	○0-5 ○5-9	○10-9 ○9-13 ○0-3	○1-4 ○0-1	1	10	0	

男子サッカー部

無冠で令和元年シーズンが終了

11月4日の北信越大学サッカーリーグの最終節をもって、長い長い令和元年のシーズンが終わりました。トップチームは3年連続の全国出場を目指し活動してきましたが、長野県選手権準優勝、総理大臣杯予選ベスト8、大学リーグ5位(1部残留)と無冠に終わりました。決意を新たに、来シーズンへ向け新チームがスタートしております。引き続き、温かいご声援をよろしくお願いいたします。(男子サッカー部 部長兼監督 齊藤 茂)



アンサンブルsolae

初めての演奏会開催

11月24日(日)松本市の信毎メディアガーデンにて松本大学アンサンブルsolae(ソラエ)の第1回定期演奏会を開催し、アカペラの合唱曲やヒット曲「パプリカ」などの演奏を披露した



しました。昨年度アンサンブル同好会として発足し、2年目となる今年からは名前を新たにクラブとして活動しています。地域の方々に日頃の練習成果を披露する機会をもちたいということで、演奏会を企画しました。当日は50名程のお客様にお越しいただき、終演後には感想や励ましの言葉を沢山かけていただきました。演奏会の開催にあたって多くの皆様からご支援、ご声援をいただき、誠にありがとうございました。今後とも応援よろしくお願いいたします。(アンサンブルsolae 顧問 大蔵 真由美)

学生活動支援金について

学生活動支援金として、同窓会より100万円をいただいております。学生たちの充実したクラブ・サークル活動の支援として、主に、ユニホームやバット・ボール等の購入に充てさせていただきます。今後も学友会費では捻出できない物品の購入に充てたいと思いますので、ご支援よろしくお願いいたします。(全学学生委員長 濱田敦志)

2020年度 入試日程

■ 総合経営学部 (総合経営学科/定員90名、観光ホスピタリティ学科/定員80名)

試験区分	募集人員		会場	出願期間	試験日	合格発表日	手続締切日
	総合経営	観光ホスピタリティ					
一般選抜A (全学共通)	20	17	松本大学・東京・名古屋・新潟・甲府・高崎	1月 6日(月) ~ 1月 24日(金)	2月 1日(土) 2月 2日(日)	2月 12日(水)	2月 19日(水)
一般選抜B (全学共通)	3	3	松本大学	2月 3日(月) ~ 2月 18日(火)	2月 21日(金)	2月 27日(水)	3月 9日(月)
一般選抜C (全学共通)	2	2	松本大学	2月 25日(火) ~ 3月 9日(月)	3月 12日(木)	3月 17日(火)	3月 24日(火)
大学入試センター試験利用選抜Ⅰ期	8	6		1月 6日(月) ~ 1月 31日(金)		2月 12日(水)	2月 19日(水)
大学入試センター試験利用選抜Ⅱ期	2	2		2月 3日(月) ~ 2月 19日(水)		2月 27日(水)	3月 9日(月)
大学入試センター試験利用選抜Ⅲ期	2	2		2月 25日(火) ~ 3月 10日(火)		3月 17日(火)	3月 24日(火)
外国人留学生選抜後期	若干名	若干名	松本大学	2月 3日(月) ~ 2月 18日(火)	2月 21日(金)	2月 27日(水)	3月 9日(月)

■ 人間健康学部 (健康栄養学科/定員70名、スポーツ健康学科/定員100名)

試験区分	募集人員		会場	出願期間	試験日	合格発表日	手続締切日
	健康栄養	スポーツ健康					
スポーツ健康学科 総合型選抜(指定競技Ⅱ期)	—	若干名	松本大学	2月 3日(月) ~ 2月 18日(火)	2月 21日(金)	2月 27日(水)	3月 9日(月)
一般選抜A (全学共通)	16	17	松本大学・東京・名古屋・新潟・甲府・高崎	1月 6日(月) ~ 1月 24日(金)	2月 1日(土) 2月 2日(日)	2月 12日(水)	2月 19日(水)
一般選抜B (全学共通)	3	3	松本大学	2月 3日(月) ~ 2月 18日(火)	2月 21日(金)	2月 27日(水)	3月 9日(月)
一般選抜C (全学共通)	若干名	2	松本大学	2月 25日(火) ~ 3月 9日(月)	3月 12日(木)	3月 17日(火)	3月 24日(火)
大学入試センター試験利用選抜Ⅰ期	10	10		1月 6日(月) ~ 1月 31日(金)		2月 12日(水)	2月 19日(水)
大学入試センター試験利用選抜Ⅱ期	3	2		2月 3日(月) ~ 2月 19日(水)		2月 27日(水)	3月 9日(月)
大学入試センター試験利用選抜Ⅲ期	若干名	2		2月 25日(火) ~ 3月 10日(火)		3月 17日(火)	3月 24日(火)

■ 教育学部 (学校教育学科/定員80名)

試験区分	募集人員		会場	出願期間	試験日	合格発表日	手続締切日
	一般	特選					
スカラシップ選抜	7		松本大学・東京・名古屋・新潟・甲府・高崎	1月 6日(月) ~ 1月 24日(金)	2月 1日(土)	2月 12日(水)	2月 19日(水)
一般選抜A (全学共通)	20		松本大学	2月 3日(月) ~ 2月 18日(火)	2月 21日(金)	2月 27日(水)	3月 9日(月)
一般選抜B (全学共通)	2		松本大学	2月 25日(火) ~ 3月 9日(月)	3月 12日(木)	3月 17日(火)	3月 24日(火)
大学入試センター試験利用スカラシップ選抜	3			1月 6日(月) ~ 1月 31日(金)		2月 12日(水)	2月 19日(水)
大学入試センター試験利用選抜Ⅰ期	10			1月 6日(月) ~ 1月 31日(金)		2月 12日(水)	2月 19日(水)
大学入試センター試験利用選抜Ⅱ期	2			2月 3日(月) ~ 2月 19日(水)		2月 27日(水)	3月 9日(月)
大学入試センター試験利用選抜Ⅲ期	2			2月 25日(火) ~ 3月 10日(火)		3月 17日(火)	3月 24日(火)

■ 松商短期大学部 (商学科・経営情報学科/各学科 定員100名)

試験区分	募集人員		会場	出願期間	試験日	合格発表日	手続締切日
	商	経営情報					
松商短期大学部 総合型選抜Ⅲ期(一般・留学支援)	若干名	若干名	松本大学	2月 13日(木) ~ 2月 25日(火)	2月 28日(金)	3月 4日(水)	3月 12日(木)
松商短期大学部 総合型選抜Ⅳ期(一般・留学支援)	若干名	若干名	松本大学	3月 2日(月) ~ 3月 17日(火)	3月 19日(木)	3月 23日(日)	3月 27日(金)
一般選抜A	6	6	松本大学・東京・名古屋・新潟・甲府・高崎	1月 6日(月) ~ 1月 24日(金)	2月 1日(土)	2月 12日(水)	2月 26日(水)
一般選抜B	2	2	松本大学	2月 13日(木) ~ 2月 25日(火)	2月 28日(金)	3月 4日(水)	3月 12日(木)
一般選抜C	2	2	松本大学	3月 2日(月) ~ 3月 17日(火)	3月 19日(木)	3月 23日(日)	3月 27日(金)
大学入試センター試験利用選抜Ⅰ期	6	6		1月 6日(月) ~ 1月 31日(金)		2月 12日(水)	2月 26日(水)
大学入試センター試験利用選抜Ⅱ期	2	2		2月 13日(木) ~ 2月 26日(水)		3月 4日(水)	3月 12日(木)
大学入試センター試験利用選抜Ⅲ期	2	2		3月 2日(月) ~ 3月 17日(火)		3月 23日(日)	3月 27日(金)
社会人総合型選抜Ⅲ期	若干名	若干名	松本大学	2月 13日(木) ~ 2月 25日(火)	2月 28日(金)	3月 4日(水)	3月 12日(木)
社会人総合型選抜Ⅳ期	若干名	若干名	松本大学	3月 2日(月) ~ 3月 17日(火)	3月 19日(木)	3月 23日(日)	3月 27日(金)
外国人留学生選抜後期	若干名	若干名	松本大学	2月 3日(月) ~ 2月 18日(火)	2月 21日(金)	2月 27日(水)	3月 9日(月)

■ 松本大学大学院健康科学研究科健康科学専攻 (一般・社会人共通)

試験区分	募集人員	会場	出願期間	試験日	合格発表日	手続締切日
後期選抜(一般学生・学内推薦学生・社会人)	3	松本大学	1月 6日(月) ~ 1月 24日(金)	2月 2日(日)	2月 12日(水)	3月 5日(木)

詳しくはホームページでご確認いただくか、入試広報室までお問い合わせください。

www.matsumoto-u.ac.jp ☎0120-507-200

9号館学生レストラン - 学生の声に応えて -

本学では2019年4月開業の9号館学生レストランの営業をシダックス社に委託しています。これまで3回のアンケートを行い、店長はじめスタッフの協力で食堂運営の改善を重ねています。10月は6月から登場の日替わり、週替わりメニュー65品目中中で実績上位11品から「特にオススメ3品」を利用者に選んでいただきました。一般の方もご利用いただけますので、ぜひお立ち寄りください。

■ 味とグレードに高い評価

上位にランクされたメニューは早々に完売することが多く、食数を増やしてほしいとの声が寄せられています。また定番のなかで一番人気の「特撰唐揚げ丼」や月1回登場の「グラパン」、「ドリア」などは、なるべくお待たせせずに出来たてを提供しようとスタッフは心がけています。

■ 学生コラボメニュー

健康栄養学科の学生が実習用に考案したメニューは食堂価格に見合うようアレンジを加えた「学生コラボメニュー」として、月に1回提供中です。

■ リクエストにこたえて

リクエストの多かった、「オムライス」、「ソースカツ丼」は週替わりメニューで登場しています。

第1位のチキン南蛮定食



● 9号館学生レストランランキング

1位	チキン南蛮定食
2位	大分とり天定食
3位	塩だれ牛焼き肉定食
4位	鶏から揚げの和風おろしだれ定食
5位	ビーフストロガノフランチ

後期からメニューに加わったフライドポテトやタピオカを傍らに置いて、午後のひとときを学生レストランで過ごす学生で賑わいをみせています。

編集後記

ラグビーワールドカップ2019日本大会が開催され、日本中が日本代表の歴史的な大躍進に熱狂し、また、この代表チームが『ONE TEAM』を合言葉に一致団結して世界の強豪チームに立ち向かっていく姿を見て、心が震わされる感動をしました。

この『ONE TEAM』の精神。これは私たちが考える「地域連携」にも通じるものがあります。地域がひとつにならなければ地域活性化はありえませんし、先日の台風のように大規模な災害を前にした際には、地域が一致団結していなければ復興はもろろん、未来への地域防災も進みません。新時代のまちづくりに向けて、地域をONE TEAMに。(記・入試広報室長 坂内 浩三)



〒390-1295 長野県松本市新村2095-1
TEL 0263-48-7200 FAX 0263-48-7290
www.matsumoto-u.ac.jp